

【根上新幹線クロスロードコース】

能美市根上図書館を起点に、田園風景と白山の眺望、新幹線が颯爽と通過する根上地区のウォーキングコース。開放的な田園地帯を進むと、遠くに白山連峰の雄大な姿が望め、北陸新幹線が疾走する瞬間は圧巻。五間堂町老人会花壇では四季折々の花が訪れる人々を楽しませる。帰路は五間堂駅跡、中ノ庄駅跡、加賀福岡駅跡を巡り、旧能美電の面影を辿る。最新の新幹線と歴史ある能美電、新旧の鉄道文化が交差する、まさに時代のクロスロードを体感できるコース。

順路	スポット名
1	能美市根上図書館
2	水辺公園
3	西二口春日神社
4	加賀福岡駅跡
5	五間堂町老人会花壇
6	五間堂駅跡
7	中ノ庄駅跡
8	能美郡家跡
9	加賀福岡駅跡
10	能美市根上図書館



能美市根上図書館
開館時間：月、水、木、金（午前9時30分から午後7時）
土、日、祝（午前9時30分から午後5時、6月～9月は午後6時まで）休館日：火曜日 トイレ有り



加賀福岡駅跡
能美電気鉄道の駅として大正14年(1925)に設置。貨車専用ホームもあり、待合室では駅員が出札や貨物の手配を行っていた。織物業全盛期の昭和10年代には機業場に通う作業員が多く利用していた。



五間堂町老人会花壇
平成元年から国道8号線沿いの遊休地137㎡を花壇として五間堂町公民館老人会により整備・管理され、花と緑の環境整備を通じて、住民同士のふれあいと安らぎのある町づくりを推進している。



水辺公園
浜開発町の田園風景の一角にたたずむ水辺公園。ストレッチが出来る健康器具あり。



西二口春日神社
二口神社は明治6年に村社となった。境内には関ヶ原の戦いで前田利長が築いた砦の石碑が残り、応仁の乱時には勤修寺の長吏も滞在したと伝わる。樹齢200年の神木（タブの木4本）は市の天然記念物。



能美郡家跡
弘仁14年（823年）に加賀国が立国され、能美など4郡に分割。郡家や関連施設が設置されたが、跡地の特定はできていない。12世紀中頃から郡家荘と称され、寺院の荘園となった。



中ノ庄駅跡
大正14年（1925）に設置。田んぼの中心にあった停留所で、高堂・荒屋方面（小松市）の人々も利用していた。昭和55年（1980）の能美線廃線に伴い廃止された。



五間堂駅跡
大正14年(1925)に設置され、通勤・通学の足として使われたほか、周辺に製陶・京都織物の工場があったため、引込み線を利用して貨物の積み降ろしを行っていた。昭和55年（1980年）に廃止。

【寺井古墳巡りコース】

能美ふるさとミュージアムを起点に、悠久の歴史を感じられる4つの古墳巡りコース。和田山古墳群、秋常山古墳群、末寺山古墳群、寺井山古墳群を巡り、史跡内の適度な高低差が身体に程よい負荷をかけるウォーキング中級者向けのルート。特に秋常山1号墳の頂上からは白山の雄大な眺望と、眼下に広がる能美市の田園風景を一望でき、古代からの歴史の重層性と自然の美しさを同時に体感できる贅沢なコース。

順路	スポット名
1	能美ふるさとミュージアム
2	和田山古墳群
3	ふるさと歴史の広場
4	秋常山古墳群
5	末寺山古墳群
6	寺井山古墳群
7	能美ふるさとミュージアム



寺井山古墳群

かつて7基の古墳と1基の弥生墓があったが、現在は5号墳と6号墓のみが残る。6号墓は弥生時代末期の区画墓で、鉄製武器を持つ有力首長の存在を示す能美最古の墓。丘陵の大半は失われている。



能美ふるさとミュージアム

能美市の自然・歴史・民俗を総合的に学べる博物館。郷土の自然と歴史を守り、より良い未来を育むことを理念に、令和2年に開館。愛称には地域の魅力があふれる場所との思いを込めている。トイレ有り。



末寺山古墳群

12基の古墳があり、9基が現存。4世紀前半に和田山から築造場所を移し、能美古墳群で唯一の前方後方墳3基を含む。6号墳は全長約57mで当時の加賀地域最大であり、首長の勢力拡大を示している。



秋常山古墳群

2基の古墳があり、4世紀末の1号墳は全長約140mの前方後円墳で、石川県最大・北陸最大級の大首長墳。5世紀半ばの2号墳は能美古墳群唯一の埴輪を出土した方墳で埋葬施設があり、埋葬状況の様子が見学可能。



ふるさと歴史の広場

和田山・末寺山史跡公園として、能美ふるさとミュージアムに隣接する公園。広大な芝生に大型の遊具、バーベキューが楽しめるデイキャンプサイトなどがある。トイレ有り。



和田山古墳群

国指定史跡「能美古墳群」の一つ。23基の古墳が確認され、19基が現存。5世紀半ばの和田山5号墳（前方後円墳）は加賀の広域首長墳。稀少な青銅製品など貴重な副葬品が多数出土している。

【辰口スポーツの丘散策コース】

能美市役所を起点に、健康ロードと物見山運動公園を周遊するコース。丘陵地は適度なアップダウンがあり、四季を感じながらトレッキングを満喫できる。健康ロードは桜の名所でもあり、4月には満開の桜のトンネルが訪れる人々を魅了する。競歩で世界記録を樹立した鈴木雄介選手も練習に使用した全長1kmのブルーミングロードを通り、能美市が誇るスポーツの聖地を巡る充実のコース。

順路	スポット名
1	能美市役所
2	来丸駅跡
3	ブルーミングロード起点
4	辰口温泉駅跡
5	のみでん広場
6	物見山体育館
7	物見山野球場
8	物見山陸上競技場
9	能美市役所



物見山体育館

能美市の社会体育施設。バレーボールやバスケットボールなどの室内競技に対応した体育館で、市民の健康増進や地域のスポーツ活動の拠点、各種大会の会場として利用されている。トイレ有り。



物見山野球場

物見山運動公園内にある平成2年建設の野球場。硬式野球の公式戦も開催可能な本格的な施設で、ナイター設備も完備。市民スポーツや学校の部活動、各種大会の会場として広く利用されている。



物見山陸上競技場

物見山運動公園内にある第2種公認の天然芝の陸上競技場。400メートルトラックと天然芝のフィールドを備え、市民の健康づくりや競技スポーツの拠点として活用されている。



辰口温泉駅跡

大正14年に「辰ノ口駅」として開業。近接する4軒の温泉宿の利用客が多かったため、昭和31年に「辰口温泉駅」に改称。温泉客や競馬場利用者などに利用され、交通拠点として親しまれた。



のみでん広場

能美電気鉄道（能美電）の車両「モハ3761号」と砂利運搬車「ホーム1号」が保存展示されている。大正14年（1925）に開通し、昭和55年（1980）の廃線まで、辰口・寺井・根上の旧3町を繋ぎ活躍した。



ブルーミングロード起点

競歩選手の鈴木雄介・山西利和両選手が練習に使用する直線1kmのコース「ブルーミングロード」。平坦で見通しが良く、200mごとの距離表示があり、市民のウォーキングコースとしても親しまれている。



来丸駅跡

能美電気鉄道（能美電）の駅として大正14年に設置され、昭和2年に開業した織布機業場の作業員の通勤に多く利用された。地域の重要な交通拠点として機能したが、昭和55年の能美線廃線に伴い廃止された。



能美市役所

石川県能美市寺井町に所在する能美市の行政機関。2005年2月の根上町・寺井町・辰口町の3町合併で発足した能美市の中心的な行政施設。市民サービスの拠点として市政運営の中核を担っている。トイレ有り。



【根上公園海浜コース】

能美根上駅を起点に、海と歴史を巡る魅力的なコース。駅から海に向かって歩き、爽やかな海風を感じながら海沿いのサイクリングロードを進む。コース途中では、源義経の家来・弁慶にまつわる「弁慶謝罪の地」や、戦国時代の面影を残す「根上松古戦場」など、歴史スポットを訪れる。緑豊かな高坂公園で一息つき、地名の由来となった名木「根上り松」では、その独特な姿が見られる。四季折々の自然を楽しめ、特に松の香りと海からの潮風が心地よい周回コース。

順路	スポット名
1	能美根上駅
2	「茜色の海が見える丘」句碑
3	弁慶謝罪の地
4	根上松古戦場
5	高坂公園
6	根上り松
7	能美根上駅



弁慶謝罪の地

歌舞伎「勧進帳」では、義経が奥州に逃れる途中、安宅の関で関守富樫に疑われた際、弁慶が主君を金剛杖で叩いて疑いを晴らした。関を越えた後の謝罪と許しの主従関係が見せ場で、その場面を表現した銅像が造られた。



「茜色の海が見える丘」句碑

初夏に鮮やかなピンクの花を咲かせる海浜植物ハマナスの群落地は市の天然記念物。日本海に沈む赤い夕日と茜色の海が美しく、松尾芭蕉が『奥の細道』で詠んだ「あかあかと日はつれなくも 秋の風」の句碑がある。



能美根上駅

大正元年12月20日開業。コンコースから東に白山、西に海に沈む夕日が臨める。東西階段の窓ガラスには5色の様々な大きさの水玉シートがちりばめられ、朝は清々しい朝日が差し込み、夕は優しい光が出迎えてくれる



根上松古戦場

源平合戦の古戦場。寿永2年（1183年）、源氏方の井家次郎範方一党17騎が平維盛軍と戦い、根上松（現在の黒松）まで追い詰められ壮絶な討死。義経も戦死者の冥福を祈ったとされる。能美市指定文化財。



高坂公園

平成3年完成の都市計画公園。中央の池「高坂堤」は300年前に農業用水源として掘られた。幹回り2m以上の巨木など約100本の樹木に藤のつるが巻きつき、5・6月には藤の花で一面紫色に染まる名所。



根上り松

通称「根上り山」の頂上付近にある樹齢120年の黒松。『源平盛衰記』や『義経記』にも登場する源平ゆかりの地で、龍がとぐろを巻いたような特異な樹形が旧「根上町」の町名の由来。市指定史跡。

【寺井九谷巡りコース】

インクルーシブプレイグラウンドのみを起点に、能美市の多彩な魅力を巡る充実のコース。松が岡の静かな住宅地を抜けると、のどかな田園風景が広がる健康ロードへと続く。西に向かって歩く道中では、かつての鉄道の面影を残す湯谷石子駅跡、加賀佐野駅跡を通過し、地域の交通史に触れることができる。歴史ある狭野神社での参拝を経て、再び丘陵地へと向かう。コースのハイライトは、世界に誇る九谷焼の聖地を通ること。KAM 能美市九谷焼美術館 | 浅蔵五十吉記念館前では、伝統工芸の息づく文化的な雰囲気を感じられる。丘陵地の起伏ある地形、豊かな田園地帯の四季の移ろい、そして九谷焼発祥の地という文化的価値が調和した、能美市ならではの特色あるルート。自然と歴史、伝統文化を一度に体験できる贅沢なウォーキングコース。

順路	スポット名
1	インクルーシブ・プレイグラウンドのみ
2	湯谷石子駅跡
3	加賀佐野駅跡
4	狭野神社
5	KAM能美市九谷焼美術館 浅蔵五十吉記念館
6	インクルーシブ・プレイグラウンドのみ



湯谷石子駅跡

1925年開設。重油タンクを備えた貨物専用ホームがあり、寺井の九谷焼工場や湯谷・徳山・和気の瓦工場への石炭・陶石の仕入れと製品出荷を行った。2つの村名が入った駅2つのうちの1つ。1980年に廃止。



インクルーシブ・プレイグラウンドのみ

インクルーシブ（仲間はずれにしない、みんな一緒）の理念を施設名に採用。すべての人が互いを尊重し多様性を認め、障がいの有無に関わらず誰もが自分のペースで楽しく遊べる公園。



加賀佐野駅跡

1925年開設。沿線で「加賀」の名が付く3駅のうちの1つ。最盛期には1日700人が利用し、陶器・木材・石材の出荷、肥料・原石の入荷拠点として産業面で重要な役割を果たした。1980年に廃止された。



狭野神社

粟生の人々が度重なる手取川洪水に苦しんでいた頃、十村牧野家が復旧開拓を祈願するために観音を祀った。御堂に安置された十一面観音は村人から「開きの観音」と崇拝され、復興への励みとなった。



KAM能美市九谷焼美術館 | 浅蔵五十吉記念館

九谷焼の伝統に現代感覚を融合させた二代浅蔵五十吉の代表作を展示。十年ごとに色・形・技法の異なる様式を創り出した独創性が特徴。建物は池原義郎氏設計で、作品の世界観を演出した建築も高く評価されている。

【辰口里山満喫コース】

石川ハイテク交流センターを起点に、里山の豊かな自然を満喫できるコース。県道 55 号を宮竹方面へ下ると、途中右手に貴重な自然環境が残る灯台笹湿地が現れ、季節によっては珍しい植物や野鳥に出会える。丘陵地を抜けて、旧能美電の面影を残す健康ロードを西に向かう。春には美しい桜並木が続き、桜のトンネルを歩く贅沢な時間を楽しめる。宮竹駅跡、三ツ口駅跡を通過しながら、かつての鉄道文化に思いを馳せることができる。左折して旭台の丘陵地へ緩やかに登る道のりでは、適度な運動効果も期待できる。石川サイエンスパーク公園を右折し、出発地へと戻る周回ルート。四季を通じて楽しめるが、特に春の桜並木と秋の街路樹の紅葉は見事で、自然の移ろいを肌で感じられる。里山の静寂と季節の彩りが調和した、心身ともにリフレッシュできる癒しのコース。

順路	スポット名
1	石川ハイテク交流センター
2	灯台笹湿地
3	宮竹駅跡
4	三ツ口駅跡
5	石川サイエンスパーク公園
6	石川ハイテク交流センター



三ツ口駅跡

1925年開設。当初は三口駅と呼ばれた。北陸鉄道合併時に金沢の同名駅と区別するため「三ツ口駅」に改称。田んぼの中心にあり、レールの軋む音が集落まで聞こえ農作業の人の時計代わりだった。1980年に廃止。



石川サイエンスパーク公園

先端技術拠点に隣接する公園。広大な緑地と回遊式の遊歩道が整備され、四季折々の木々が安らぎを与える。イノベーションと自然が融合したこの空間では心静かに散策できる。



宮竹駅跡

1925年開設。引込み線近くに農協の倉庫があり、米・肥料・織物などが運ばれていた。駅の傍の酒造店は地元で親しまれた。1980年に廃止された。



灯台笹湿地

かつては水田だったが整地されて水が溜まり形成された。面積約700㎡の浅い湿地で、日本最小のトンボ「ハッチョウトンボ」が生息している。



石川ハイテク交流センター

北陸先端大を中心とする産学連携拠点、いしかわサイエンスパーク内の施設。大小会議室を完備し、宿泊・企業研修・勉強会など多様な会合に対応可能。

【根上スポーツ海浜コース】

能美市根上サービスセンターを起点に、海と文化を巡る充実したコース。能美根上駅前を通過し、海に向かってまっすぐ進むと、美しい海岸線が広がる。海岸では「茜色の海が見える丘」句碑で文学の世界に触れ、右折して海岸沿いを北上。爽やかな潮風を感じながら歩く時間は格別だ。内陸方面へ転じると、歴史ある吉原釜屋春日神社を通過し、地域の信仰文化を感じられる。県道 25 号を東に向かい、IR の陸橋を超えて一本松きらく園の色とりどりの花壇を眺め、福島親水公園で自然との触れ合いを楽しむ。能美市根上野球場では加賀大介歌碑の音楽に耳を傾け、福島日吉神社、珍しい根上隕石碑を経由する。コースの締めくくりは、競歩で世界記録を樹立した鈴木雄介の記念碑。スポーツの偉業に思いを馳せながら、出発地へと戻る。海の開放感と地域の文化遺産が調和した、根上地区ならではの魅力満載のルート。

順路	スポット名
1	能美市根上サービスセンター
2	「茜色の海が見える丘」句碑
3	吉原釜屋春日神社
4	一本松きらく園
5	福島親水公園
6	加賀大介歌碑（甲子園高校野球大会歌碑）
7	福島日吉神社
8	根上隕石碑
9	鈴木雄介競歩世界新記録記念碑
10	能美市根上サービスセンター



「茜色の海が見える丘」句碑
初夏に鮮やかなピンクの花を咲かせる海浜植物ハマナスの群落地は市の天然記念物。日本海に沈む赤い夕日と茜色の海が美しく、松尾芭蕉が『奥の細道』で詠んだ「あかあかと日はつれなくも 秋の風」の句碑がある。



能美市根上サービスセンター
平成17年の3町合併で能美市が誕生した際、旧根上町地域の住民サービス継続のため設置された行政窓口。住民票・戸籍・税務・福祉等の手続きに対応。平日8時30分～17時15分営業。トイレ有。



鈴木雄介競歩世界新記録記念碑
能美市出身の鈴木雄介選手が2015年の全日本競歩能美大会で世界記録を樹立した記念碑。世界陸上やロンドン五輪に出場し、2019年世界陸上ドーハ大会50km競歩で優勝した。



吉原釜屋春日神社
根上地区唯一の朱塗りの鳥居を持つ。松、杉、竹などの老樹が茂る見事な鎮守の森を形成し、特に数百年を経た桜の大樹は春には美しい花を咲かせる。



一本松きらく園
昭和44年まで火葬場があった地に平成元年道路開通時、供養と交通安全祈願で合掌地蔵堂を建立。松林は害虫等で一本のみ残り、平成26年に福島町のシンボルとして「一本松きらく園」と命名、きらく会が保全活動中。



福島親水公園
合遊具やインラインスケートコースがあり、多くの子どもたちで賑わっている。周辺には住宅地、保育園があり、近くを西川が流れている。トイレ駐車場有り。



根上隕石碑
1995年2月18日、隕石が大成町に落下し、日本で自動車に直撃した唯一のもの。大小4個の破片など合計420gが回収され、27日後の隕石認定は日本最速記録。市内小学4年生が毎年学習している。



福島日吉神社
明治35年（1902年）に日吉神社2社、明治45年（1912年）に濁池八幡神社を合祀。樹齢200年超の榎は海岸防砂林として船の目印だった。昭和17年まで2本あったが現在は1本のみ。市指定天然記念物。



加賀大介歌碑（甲子園高校野球大会歌碑）
全国高校野球大会の大会歌「栄冠は君に輝く」は、根上村濁池で生まれた加賀大介の作詞。昭和23年（1948）に朝日新聞社の募集で5,252編の中から第1位に選ばれた。作曲は古関裕而。

【寺井健康ロード用水巡りコース】

能美ふるさとミュージアムを起点に、地域の歴史と水の恵みを感じられるコース。出発後、牧野孫七の墓前を通過し、地域の偉人に敬意を表する。県道 102 号を左折し、国道 8 号の側道から健康ロードへ入ると、旧能美電の軌道跡を辿る歴史散策が始まる。東に向かって約 4 キロの道のりでは、寺井西口跡、本寺井駅跡（現・能美市立寺井図書館）、末信牛島駅跡、加賀佐野駅跡、湯谷石子駅跡を順次通過し、かつての鉄道文化の面影を感じながら歩ける。コース後半は大門用水に沿って進み、清らかな水の流れが奏でる自然の音色に心が癒される。宮竹用水も合わせて、能美平野を潤す水路の恵みを実感できる貴重な体験となる。和田山古墳群方面へ向かい、古代からの歴史の重層性を感じた後、ふるさと歴史の広場を通して出発地へ戻る。交通史、治水史、古代史が織りなす文化的価値の高いルートで、水辺の爽やかさと歴史ロマンを同時に楽しめる充実したコース。



牧野孫七の墓

寛永年間から代々北板津組の十村を務めた牧野家の屋敷跡。8代孫七は九谷庄三を支援し九谷焼の彩色金襴手完成に功績を残し、俳人「松台」として文化振興に貢献。手取川洪水では私財を投じて復旧に尽力。市指定史跡。



能美ふるさとミュージアム

能美市の自然・歴史・民俗を総合的に学べる博物館。郷土の自然と歴史を守り、より良い未来を育むことを理念に、令和2年に開館。愛称には地域の魅力があふれる場所との思いを込めている。トイレ有り。



ふるさと歴史の広場

和田山・末寺山史跡公園として、能美ふるさとミュージアムに隣接する公園。広大な芝生に大型の遊具、バーベキューが楽しめるデイキャンプサイトなどがある。トイレ有り。

順路	スポット名
1	能美ふるさとミュージアム
2	牧野孫七の墓
3	寺井西口駅跡
4	本寺井駅跡（能美市立寺井図書館）
5	末信牛島駅跡
6	加賀佐野駅跡
7	湯谷石子駅跡
8	ふるさと歴史の広場
9	能美ふるさとミュージアム



寺井西口駅跡

1925年開設。粟生・吉光・西任田・東任田方面の多くの人々が利用した。寺井野診療所（後の寺井病院）の通院にも利用された。1980年に廃止された。



本寺井駅跡（能美市立寺井図書館）

1925年開設。駅前に商店街や映画館があり繁華街として栄え、1日の利用者は千人を超えた。昭和30年頃には九谷まつり（後の九谷茶碗まつり）が開催され、九谷陶磁器の貨物運搬拠点であった。1980年に廃止。



末信牛島駅跡

1925年開設当初は「末信駅」と呼ばれた。戦時中は軍需物資として乾電池の材料を降ろし加工工場へ運び、近くの農協倉庫から米俵を積み込む駅でもあった。2つの村名が入った駅2つのうちの1つ。1980年廃止。



加賀佐野駅跡

1925年開設。沿線で「加賀」の名が付く3駅のうちの1つ。最盛期には1日700人が利用し、陶器・木材・石材の出荷、肥料・原石の入荷拠点として産業面で重要な役割を果たした。1980年に廃止された。



湯谷石子駅跡

1925年開設。重油タンクを備えた貨物専用ホームがあり、寺井の九谷焼工場や湯谷・徳山・和気の瓦工場への石炭・陶石の仕入れと製品出荷を行った。2つの村名が入った駅2つのうちの1つ。1980年に廃止。

【辰口石碑巡りコース】

辰口の手取川堤防にある山田町の水辺プラザを起点に、水の恵みと歴史を巡るコース。出発後、東にある水害記念碑を通過し、先人たちが手取川の水害と向き合ってきた歴史に思いを馳せる。山田町公民館前から健康ロードへ入ると、競歩の練習コースとして知られるブルーミングロードの起点を通過。辰口温泉駅跡、のみでん広場では、かつての能美電の軌道跡を辿りながら地域の交通史を感じられる。西に向かって徳久町地内を右折し、山上郷八幡神社、上清水八幡神社を経由する神社巡りでは、地域の信仰文化に触れることができる。工場敷地外周を左回りに進み、出口八幡神社前を通過して水辺プラザへ戻る周回ルート。手取川がもたらす豊かな水の恵みによって育まれた広大な水田風景は圧巻で、四季折々の田園美を堪能できる。辰口町の水害の歴史を学びながら、自然と人間の共生について考えさせられる、教育的価値の高いコース。

順路	スポット名
1	水辺プラザ
2	水害記念碑
3	山田町公民館
4	ブルーミングロード起点
5	辰口温泉駅跡
6	のみでん広場
7	山上郷八幡神社
8	上清水八幡神社
9	出口八幡神社
10	水辺プラザ



上清水八幡神社

境内には「昭和九年流石の碑」や湧水跡の「水神様石祠」がある。昭和9年の洪水で上清水集落は完全に孤立し、渡し舟で往来する事態となった。流れ着いた石に添えて平成13年に碑が建立された。



出口八幡神社

明治29年（1896年）の洪水で稲田は砂礫の河原となり、家屋は押し潰された。この時に流れ着いた3個の大石を記念石として境内に安置されている。



水辺プラザ

手取川の治水と親水を両立させた公園。広い芝生広場でランニングや野鳥観察が楽しめる。防災施設としてヘリポート等を備え、ガイダンス施設では暴れ川だった手取川の歴史や自然を学べる。



水害記念碑

高さ約130cmの川原石の石碑で、明治29年（1896年）の手取川洪水の際に流れてきたものと伝えられる。碑文は火釜の文人米田尚志氏の起草とされ、山田の水害の歴史が記されている。



山上郷八幡神社

境内に設置された水害記念碑。昭和9年（1934年）の手取川水害後、昭和16年（1941年）に奉納された。「水害記念」の文字は、水害時に集落に流れ着いた石に刻んだものとされる。



のみでん広場

能美電気鉄道（能美電）の車両「モハ3761号」と砂利運搬車「ホム1号」が保存展示されている。大正14年（1925）に開通し、昭和55年（1980）の廃線まで、辰口・寺井・根上の旧3町を繋ぎ活躍した。



辰口温泉駅跡

大正14年に「辰ノ口駅」として開業。近接する4軒の温泉宿の利用客が多かったため、昭和31年に「辰口温泉駅」に改称。温泉客や競馬場利用者などに利用され、交通拠点として親しまれた。



ブルーミングロード起点

競歩選手の鈴木雄介・山西利和両選手が練習に使用する直線1kmのコース「ブルーミングロード」。平坦で見通しが良く、200mごとの距離表示があり、市民のウォーキングコースとしても親しまれている。



山田町公民館

地域の交流・生涯学習の拠点となる公民館。地域行事等に幅広く利用されている。トイレ、駐車場有り。

【健康ロード_新寺井駅跡出発】

※健康ロード_天狗山駅跡出発コースも有り

新寺井駅跡を起点に、辰口の天狗山駅跡まで続く壮大なコース。大正14年から昭和55年まで地域住民の足として親しまれた旧北陸鉄道能美電の軌道跡を辿る、全国的にも珍しい廃線跡活用ルート。全長約16kmの道のりには、かつての鉄道駅18か所がチェックポイントとして配置され、旧駅舎看板が当時を偲ばせる目印となっている。旧根上町、寺井町、辰口町を東西に貫き、日本海の海岸線から手取川扇状地の山間部まで、能美市の多彩な地形と四季の移ろいを楽しめる。市街地から田園地帯へと変化する風景の中を歩きながら、多くの人々の生活を支えた鉄道の歴史に思いを馳せることができる、交通史と自然が調和した、他に類を見ない貴重な歴史遺産コース。



中ノ庄駅跡
大正14年（1925）に設置。田んぼの中心にあった停留所で、高堂・荒屋方面（小松市）の人々利用していた。昭和55年（1980）の能美線廃線に伴い廃止された。



湯谷石子駅跡
1925年開設。重油タンクを備えた貨物専用ホームがあり、寺井の九谷焼工場や湯谷・徳山・和気の瓦工場への石炭・陶石の仕入れと製品出荷を行った。2つの村名が入った駅2つのうちの1つ。1980年に廃止。



徳久駅跡
1925年開設。駅の西側にあった金沢電気軌道（後の北陸鉄道）や徳久変電所にも職員が常駐していた。1980年に廃止された。



上開発駅跡
1925年開設。近くに産業組合支部の倉庫が建てられ、肥料や米の出荷のために貨物専用の引込み線が敷かれた。1980年に廃止された。



辰口温泉駅跡
大正14年に「辰ノ口駅」として開業。近接する4軒の温泉宿の利用客が多かったため、昭和31年に「辰口温泉駅」に改称。温泉客や競馬場利用者などに利用され、交通拠点として親しまれた。



来丸駅跡
能美電気鉄道（能美電）の駅として大正14年に設置され、昭和2年に開業した織布機業場の作業員の通勤に多く利用された。地域の重要な交通拠点として機能したが、昭和55年の能美線廃線に伴い廃止された。



加賀岩内駅跡
1925年開設。小麦・薬工品・肥料・織物製品などの貨物駅が併設された大きな駅で、接骨院もあり国鉄との併用切符販売で注目を集めた。1980年に廃止された。



灯台笹駅跡
1925年開設。田んぼの中心にあり、通勤・通学に利用が多かった。裏山には凝灰岩の石切り場だった天狗壁があり、石材運搬で販路拡大に大きな役割を果たした。1980年に廃止された。



岩本駅跡
1925年開設。1932年まで最東端の駅だった。天狗壁は良質石材の石切り場で、昭和30年頃まで石が切り出され貨車で運搬され、販路拡大に大きな役割を果たした。1980年に廃止された。



新寺井駅跡
1925年開設。北陸本線との連絡駅として、小松・金沢への通勤通学客や夏の加賀舞子海水浴場利用者で賑わった。戦後は映画館もでき、白山参拝者・登山者にも多く利用された。1980年に廃止された。



天狗山駅跡
大正14年に「新鶴来駅」として開業。昭和6年の天狗山トンネル完成後、翌年本鶴来駅まで繋がったことで「天狗山駅」に改称。昭和9年の手取川大洪水で鉄橋が流失し翌年まで寸断。昭和21年廃止。



加賀福岡駅跡
能美電気鉄道の駅として大正14年（1925）に設置。貨車専用ホームもあり、待合室では駅員が出札や貨物の手配を行っていた。織物業全盛期の昭和10年代には機業場に通う作業員が多く利用していた。



五間堂駅跡
大正14年（1925）に設置され、通勤・通学の足として使われたほか、周辺に製陶・京都織物の工場があったため、引込み線を利用して貨物の積み降ろしを行っていた。昭和55年（1980年）に廃止。



寺井西口駅跡
1925年開設。粟生・吉光・西任・田・東任田方面の多くの人々が利用した。寺井野診療所（後の寺井病院）の通院にも利用された。1980年に廃止された。



本寺井駅跡（能美市立寺井図書館）
1925年開設。駅前に商店街や映画館があり繁華街として栄え、1日の利用者は千人を超えた。昭和30年頃には九谷まつり（後の九谷茶碗まつり）が開催され、九谷陶磁器の貨物運搬拠点であった。1980年に廃止。



末信牛島駅跡
1925年開設当初は「末信駅」と呼ばれた。戦時中は軍需物資として乾電池の材料を降ろし加工工場へ運び、近くの農協倉庫から米俵を積み込む駅でもあった。2つの村名が入った駅2つのうちの1つ。1980年廃止。



加賀佐野駅跡
1925年開設。沿線で「加賀」の名が付く3駅のうちの1つ。最盛期には1日700人が利用し、陶器・木材・石材の出荷、肥料・原石の入荷拠点として産業面で重要な役割を果たした。1980年に廃止された。



火釜駅跡
1925年開設。近くに火釜八幡神社があり、田んぼの中心にある小さな駅だった。雪などで電車が遅れた時には、通勤通学の人々でホームが溢れていた。1980年に廃止された。



ミツ口駅跡
1925年開設。当初は三口駅と呼ばれた。北陸鉄道合併時に金沢の同名駅と区別するため「ミツ口駅」に改称。田んぼの中心にあり、レールの軋む音が集落まで聞こえ農作業の人の時計代わりだった。1980年に廃止。



宮竹駅跡
1925年開設。引込み線近くに農協の倉庫があり、米・肥料・織物などが運ばれていた。駅の隣の酒造店は地元で親しまれた。1980年に廃止された。